

鹿兒島県から得られたワタリガニ科甲殻類 3 種の記録

岩坪洗樹¹・岩坪政光²¹ 〒 890-0056 鹿兒島市下荒田 4-50-20 鹿兒島大学水産学研究所² 〒 890-0007 鹿兒島市伊敷台 5-10-14

■ はじめに

ワタリガニ科甲殻類 (Decapoda: Portunidae) は、甲が平たく横に幅広いこと、額は幅広く歯があること、前側縁に 2-9 歯あり、最後の歯の部分で甲幅が最大となること、第 1 触覚が斜めまたは横にたたまれること、ほとんどの種で第 4 歩脚が遊泳脚状となることなどが特徴である (酒井, 1976; 西村, 1995; 峯水, 2000)。また、第 4 歩脚は歩くこと以外に浮き上がって泳ぐことにも使用される (西村, 1995; 峯水 2000)。本科甲殻類は日本国内から 18 属 97 種が知られており (西村, 1995), ジャノメガザミ, タイワンガザミ, およびヒラツメガニなど水産有用種が多く含まれる (西村, 1995; 峯水, 2000; 大富, 2011)。

2010 年から 2012 年にかけて鹿兒島県薩摩半島沿岸から、鹿兒島県本土未記録であるワタリガニ科甲殻類のワタリイシガニ *Charybdis (Charybdis) natator* (Herbst, 1794), トガリマダライシガニ *Charybdis (Goniosupradens) acutifrons* (De Haan, 1879), およびアマミベニツケガニ *Thalassidroma simpsoni* A. Milne Edwards, 1861 がそれぞれ採集された。そのうち、アマミベニツケガニは標本に基づく北限更新記録である。そのため、鹿兒島県薩摩半島沿岸から得られたワタリガニ科甲殻類 3 種をここに報告する。

Iwatsubo, H. and M. Iwatsubo. 2013. Records of three species of swimming crabs (Decapoda: Portunidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 91-95.

☑ Graduate School of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: k8878027@kadai.jp).

■ 材料と方法

甲長, 甲幅の計測方法は三宅 (1983) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。採集地のデータはすべて鹿兒島県を省略した。生鮮時の体色の記載は、ワタリイシガニは KAUM-AT-146, トガリマダライシガニは KAUM-AT-145, アマミベニツケガニは KAUM-AT-148 の生鮮時のカラー写真にそれぞれ基づく。本報告に用いた標本は鹿兒島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されている。

■ 結果と考察

***Charybdis (Charybdis) natator* (Herbst, 1794)**

ワタリイシガニ (Fig. 1)

標本 KAUM-AT-146, 甲長 30.3 mm, 甲幅 44.9 mm, 南九州市穎娃町番所鼻自然公園 (31° 14'48"N, 130°15'44"E), 2012 年 8 月 3 日, 水深 1.0 m, 岩坪洗樹。

記載 甲全面が軟らかい短毛でおおわれる。胃域, 鰓域, 心域, 腸域, および鰓域内面後部の各稜線が毛の面から現れる。額に 6 歯あり, すべて先端が丸い。中歯と間歯はたがいに接近し, 中歯が間歯よりわずかに大きい。前側縁は 6 歯あり, そのうち第 1・第 2 歯は先端が丸く, 残りの 4 歯は先端が尖る。眼前歯は先端が丸みのある三角形で, 額歯より大きい。鉗脚の長節前縁は, 小さい 3 棘と大きい 2 棘が交互に列生する。腕節内縁に 1 棘, 外縁に 2 棘ある。掌部は 4 棘が 2 棘ずつ 2 列に並び, 腕節と関節する上縁に 1 棘がある。なお各節の表面に顆粒が散在する。掌部腹面には鱗



Fig. 1. Fresh specimen of *Charybdis (Charybdis) natator* from Ei, Minamikyushu, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-AT-146, 30.3 mm CL, 44.9 mm CW).

状の横突起が2列になって縦走り、不動指の腹面で合一し1列になる。

生鮮時の色彩 甲面と鉗脚の地色は薄黄緑色である。鉗脚の棘は白色で、先端と基部が濃紫色である。鉗脚の顆粒は濃紫色。前側縁の歯は先端が白色。歩脚はすべて濃紫色で、それぞれ甲面に向かって白色がかかる。

分布 日本国外では台湾、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、ホンコン、インドネシア、オーストラリア、インド、スリランカ、紅海、およびマダガスカルなどのインド洋から西部太平洋にかけて分布する (Stephenson et al., 1957; 酒井, 1976; Motoh, 1980; Wee and Ng, 1995; 峯水, 2000)。国内では相模湾、紀伊半島、および鹿児島県南九州市に分布する (酒井, 1976; 峯水, 2000; 本研究)。

備考 本標本は砂泥底の転石の下に隠れているところを採集された。

ワタリイシガニは、これまで日本国内では相模湾と紀伊半島から記録されていたが (酒井, 1976; 峯水, 2000)、鹿児島県南九州市からも生

息が確認された。したがって、ワタリイシガニの鹿児島県での採集記録は、これまでの分布の空白域を埋めるものであり、本種が相模湾以南の南日本に広く分布することを示唆する。

***Charybdis (Goniosupradens) acutifrons* (De Haan, 1879)**
トガリマダライシガニ (Fig. 2)

標本 KAUM-AT-145, 甲長 25.0 mm, 甲幅 35.1 mm, 南さつま市坊津町丸木浜近くの岩礁域 (31°17'05"N, 130°12'36"E), 水深 3 m, 2010 年 9 月 6 日, 岩坪政光・岩坪洗樹。

記載 甲面が軟らかい短毛でおおわれる。甲面の稜線が心域と鰓域の内面後方にも存在する。前側縁は 5 歯あり、いずれも鋭く尖り、先端が褐色である。第 1, 2 前縁歯の後縁に小歯がある。額の前縁の 6 歯はすべて先端が鋭く尖る。眼前歯は幅広い三角形である。鉗脚の長節前縁に 3 棘があり、そのうち基部の 1 棘は他の 2 棘に比べ小さい。腕節

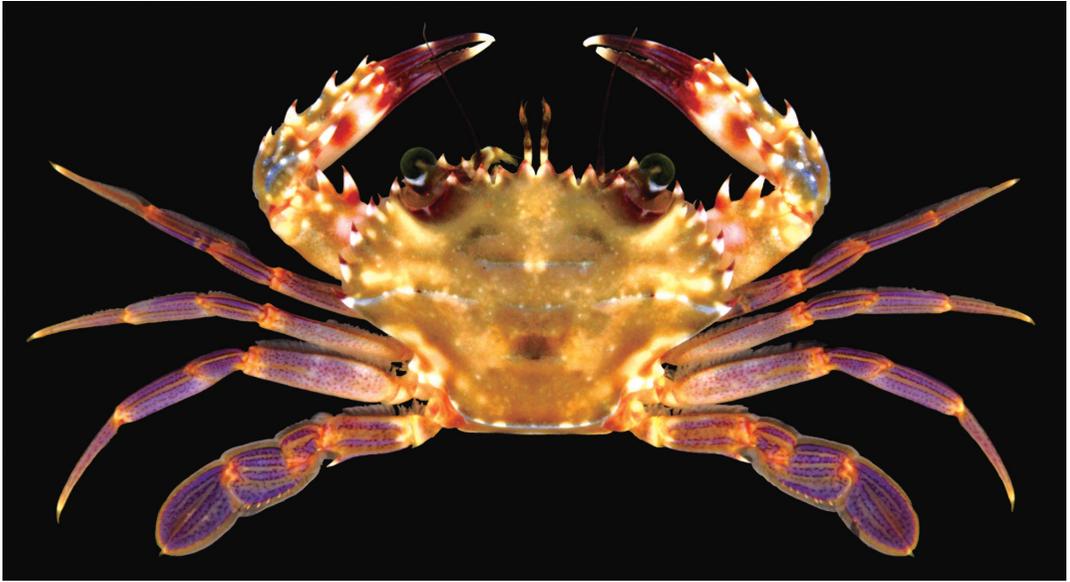


Fig. 2. Fresh specimen of *Charybdis (Goniosupradens) acutifrons* from Bonotsu, Minamisatsuma, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-AT-145, 25.0 mm CL, 35.1 mm CW).

内縁に大きい1棘, 外縁に3棘がある。掌部上縁に4棘が2棘ずつ2列に並び, 掌部上縁基部に1棘がある。

生鮮時の色彩 額の6歯は先端が褐色である。甲面と鉗脚は地色が緑褐色で, 薄黄色の不規則な形のまだら模様がある。全ての歩脚は淡紫色で, 関節部が橙色である。掌部は暗紫色で先端は白色を呈する。

分布 日本国外ではマレーシア, インドネシア, スマトラ東部, モルッカ諸島, チモール島, ソロモン諸島, およびタンザニアなどのインド洋から西部太平洋にかけて分布する(酒井, 1976; 武田, 1982; Wee and Ng, 1995)。国内では相模湾(三浦半島沿岸), 紀伊半島, 鹿児島県南さつま市, および与論島に分布する(酒井, 1976; 武田, 1982; 本研究)。

備考 南さつま市坊津町丸木浜近くの岩礁域から得られたトガリマダライシガニは, サンゴイソギンチャク *Entacmaea actinostoloides* (Uchida, 1947) の根元付近に隠れていた。

トガリマダライシガニは, これまで日本国内では相模湾, 紀伊半島, および与論島から記録さ

れていたが(酒井, 1976; 武田, 1982), 鹿児島県南さつま市からも生息が確認された。トガリマダライシガニの鹿児島県での採集記録は, これまでの分布の空白域を埋めるものであり, 本種が相模湾以南の南日本に広く分布することを示唆する。

Thalamita simpsoni A. Milne Edwards, 1861

アマミベニツケガニ (Fig. 3)

標本 KAUM-AT-147, 甲長 23.8 mm, 甲幅 33.2 mm, 南さつま市坊津町丸木浜近くの岩礁域(31°17'05"N, 130°12'36"E), 水深 0.5 m, 2010年9月23日, 岩坪洗樹・菊地一真・船越亮平・森田有紀; KAUM-AT-148, 甲長 25.4 mm, 甲幅 37.0 mm, いちき串木野市小瀬町長崎鼻公園(31°42'24"N, 130°15'44"E), 2010年10月22日, 水深 0.1 m, 岩坪洗樹・坂脇佑介; KAUM-AT-149, 甲長 23.2 mm, 甲幅 34.3 mm, いちき串木野市小瀬町長崎鼻公園(31°42'24"N, 130°15'44"E), 2011年11月27日, 水深 0.3 m, 岩坪政光・岩坪洗樹。



Fig. 3. Fresh specimen of *Thalamita stimpsoni* from Koze, Ichiki-kushikino, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-AT-148, 25.4 mm CL, 37.0 mm CW).

記載 額に幅広く先端が平たい6歯がある。この6歯はたがいに接近する。前側縁は5歯で、第4歯が他の前側縁歯に比べ著しく小さい。甲面の横の稜線は顕著ではなく、甲の後半部には稜線を欠く。甲面の各稜線の前方に軟らかい短毛がある。鉗脚は細かい顆粒でおおわれる。眼前歯は先端が丸く幅広い。長節前縁に3棘、腕節内縁に1棘、外縁に3棘、掌部は上縁に2棘ずつ2列ならび、基部に1棘がある。

生鮮時の色彩 甲面は緑色がかった濃褐色で、不規則な形をした淡褐色のまだら模様がある。甲の前半面に黒色がかった褐色斑が1対ある。第1-第3歩脚は緑色がかった褐色で、それぞれ甲面に向かって褐色になる。第4歩脚は青色がかった緑色を呈する。

分布 日本国外ではフィリピン、サモア、オーストラリア、および紅海などのインド洋から南部・西部太平洋にかけて分布する(酒井, 1976; 峯水, 2000)。国内では鹿児島県いちき串木野市、南さつま市、種子島、奄美大島、与論島、および沖縄県などの鹿児島県以南に分布する(酒井, 1976; 永井・野村, 1988; 峯水, 2000; 本研究)。

備考 本標本はすべて潮間帯の岩礁域で採集

された。

日本国内におけるアマミベニツケガニの分布は、これまで種子島が北限とされていたが(酒井, 1976; 永井・野村, 1988; 峯水, 2000)、鹿児島県(いちき串木野市と南さつま市)からも生息が確認された。したがって、本種の分布は約110 km北限を更新されたことになる。

■ 謝辞

本研究を行うに際し、シーホースウェイズ株式会社に加藤 紳氏、出水市役所の坂脇佑介氏、垂水市の船越亮平氏、鹿児島大学大学院水産学研究科の菊地一真氏、同大学水産学部の國分翔吾氏と森田有紀氏には標本採集に協力して頂いた。鹿児島大学総合研究博物館の本村浩之博士と福元しげ子氏には標本登録に協力して頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

■ 引用文献

- 峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド 海の甲殻類 初版, 344 pp. 文一総合出版, 東京.
- 三宅定祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II) 初版, viii + 277pp. 保育社, 大阪.

- Motoh, H. 1980. Field guide for the edible crustacea of the Philippines, 96 pp. Aquacultuer Department, Iloilo.
- 永井誠二・野村恵一. 1988. 沖縄海中生物図鑑 第7巻 甲殻類(カニ), 海中公園センター(監). 250 pp. 新星図書出版, 沖縄.
- 西村三郎. 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑II 初版, cxliv + 663 pp. 保育社, 大阪.
- 大富 潤, 2011. 九州発 食べる地魚図鑑, 255 pp. 南方新社, 鹿児島.
- 酒井 恒, 1976. 日本産蟹類, 461 pp. 講談社, 東京.
- Stephenson, W., J. J. Hudson and B. M. Campbell. 1957. The Australian portunids (Crustacea; Portunidae). Australian Journal of Marine and Freshwater Research 8: 491-507.
- 武田正倫. 1982. 原色甲殻類検索図鑑 初版, 284 pp. 北隆館, 東京.
- Wee, D. P. C. and P. K. L. Ng (1995) Swimming crabs of the genera *Charybdis* De Haan, 1833, and *Thalamita* Latreille, 1829 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Portunidae) from Peninsular Malaysia and Singapore. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement (1): 1-128.